

3（様式1）実施報告書

1 補助事業者情報

（1）事業者団体情報

団体名	横浜市
-----	-----

（2）都道府県・政令指定都市との連携（申請者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人又は団体の場合のみ記載）

--

2 事業の概要

1. 事業の名称	横浜地域における地域日本語教育の体制づくり推進事業
2. 事業の期間	令和3年4月1日～令和4年3月10日（12か月間）
3. 事業実施前の現状と課題	

●現状

（1）外国人人口の増加

- ・横浜市の外国人人口は、直近5か年で約3割増加し、平成31年4月末に初めて10万人を突破し、令和2年末時点で、約10万2千人となっている（全国の市区町村で2番目）。国において、平成31年4月から新たな外国人材の受入れ制度が開始されるなど、今後も増加が見込まれる。

（2）「日本語の不自由さ」に困る外国人の規模と学習意欲の高さ

- ・横浜市が実施した「令和元年度 横浜市外国人意識調査 結果」によると、困りごととして「日本語の不自由さ」をあげた外国人は29.8%という結果が示されている。そのうち、日本語の学習意欲を有する人は91.1%であった。

（3）地域日本語教室の多様性

- ・現在、市域には、NPOやボランティア団体などによる130以上の地域日本語教室が開催されている。市内18区、全ての区で開催されており、地域の多文化共生の公的な拠点である、国際交流ラウンジ（市内11か所）でも、日本語教室を開催している。

（4）地域日本語教室への支援と日本語教育機関の存在

- ・地域における取組に対して、横浜市国際交流協会（YOKE）が、地域日本語教室の運営支援や連携促進等を行っている。また、その他に、約50の日本語教育機関や9つの日本語教師養成機関など、専門的な日本語教育機関が多数ある。

●課題

（1）地域日本語教室のさらなる充実

- ・地域日本語教室には、「日本人とのコミュニケーション」を求めるあらゆる人の学習の場としての役割がある。またその充実には、「学習の場の確保（69.4%）」「継続的な学習への支援（45.4%）」「初期日本語（44.4%）」の支援等が必要と考えられている。（「横浜地域における地域日本語教

育の総合的推進に係る実態調査報告書（2020年2月）」における地域日本語教室調査より）

（2）地域日本語教育を担う人材の育成・確保とネットワーク化

- ・外国人の増加・多様化が進み、日本語学習ニーズも様々であるなか、地域日本語教育の中心は、依然としてボランティアによる教室が担っている。学習希望者に対する安定的、継続的な学習環境の提供、日本語教育に精通した講師の取り込み、外国人を含む市民ボランティアの参画等、日本語学習を通じた多文化共生のまちづくりに向け、人材の育成・確保が必要とされる。

（3）企業向け等、新たな日本語教室への需要

- ・外国人労働者を抱える企業では、日本語学習支援ニーズが高いものの、ノウハウ不足等から、対応が十分図られていないと考えられる。地域日本語教室側でも、企業からの日本語学習支援ニーズや就労者の日本語教室参加への対応の難しさが課題として挙げられている。
- ・初期日本語や親子（子育て）向け等の教室開催ニーズに対して、現状の地域日本語教室の取組では充足できていない。

（4）コロナ禍における地域日本語教室の活動支援と ICT の活用促進

- ・感染症拡大防止から、地域日本語教室の対面での活動が中止・縮小されており、学習者にとっての学習の場・機会の確保、活動継続に向けた地域日本語教室への支援が必要となっている。学習者以上にボランティアにとり慣れないツールである ICT を活用することなどを通して、安全に活動を継続できるための連携および支援が必要とされている。

4. 目的

「横浜市国際交流協会（YOKE）を中核とした、こどもから大人までの切れ目のない地域の日本語教育の支援、総合的な推進」

- ・新たな在留資格の創設等により、今後、さらなる外国人の増加が見込まれる中、日本語学習を通じて外国人が生活の場で円滑にコミュニケーションのできる環境を整える。
- ・環境整備にあたっては、横浜市国際交流協会（YOKE）におけるこれまでの取組、および令和2年度の地域日本語教育の総合的な体制作り推進事業を発展させ、地域日本語教室への支援や、関係機関・団体との有機的な連携の推進を図り、市域の日本語教育を推進する。
- ・日本語教育の推進により、外国人住民の日本語習得の促進を図ることで、外国人が地域で安心して生活し、さらに地域社会で活躍できる、多文化共生のまちづくりの推進にもつなげる。
- ・以上、5か年を通して横浜の地域特性を踏まえた日本語学習を通じ、多文化共生のまちづくりの推進を目指す（「横浜×日本語×多文化共生」）。

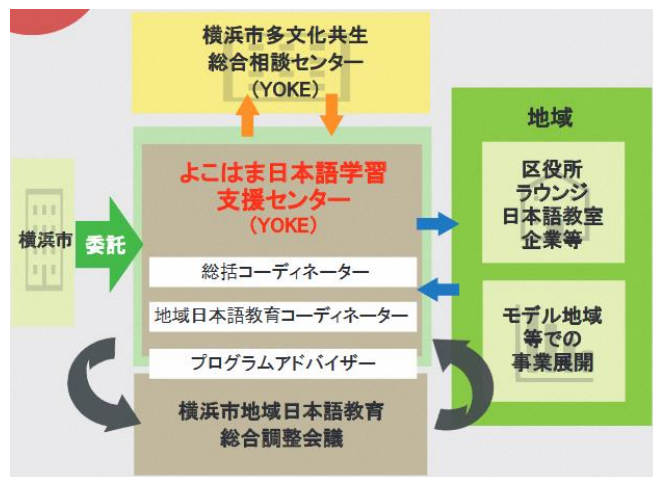
2年目にあたる令和3年度は、地域日本語教育の中核的な拠点「よこはま日本語学習支援センター」を基盤とし、関係機関・団体（市・区役所、地域日本語教室、NPO法人、日本語教育機関、企業等）とのより一層の連携促進を図りつつ、地域日本語教室への支援の充実、モデル地域での関係団体のネットワーク構築の強化、新たなニーズに対応する企業と連携したプログラムの検討実施などを展開していく。

3 事業の実施体制

（1）実施体制（図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターを含めて記載してください。）

令和2年8月に横浜市国際交流協会（YOKE）内に設置した、地域日本語教育の中核的な拠点「よこはま日本語学習支援センター」が中心となり、事業を推進する（図参照）。センターに総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターを配置し、地域において区役所・ラウンジ・日本語教室・企業等との連携やモデル地域での事業展開を進めていく。また推進にあたっては、総合調整会議、プロジェクト推進ワーキンググループでの意見聴取・意見交換、およびプログラムアドバイザーの助言を踏まえつつ総合的な体制づくり推進事業を進める。

推進事業は、横浜市国際交流協会（YOKE）に委託して実施する。YOKEはこれまで市内日本語学習におけるコーディネート等を通じて、地域日本語教室（130以上）とネットワークを構築し、また専門的なノウハウを蓄積してきた。また、令和元年度および2年度に「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」（プログラムA・B）の本市事業を受託した実績を有する。



《事業の中核メンバー》

	氏名	所属	職名	役割
1	坂本 淳	横浜市国際交流協会	事務局次長	統括責任者
2	門 美由紀	横浜市国際交流協会	多文化共生推進課職員	総括コーディネーター
3	藤井 美香	横浜市国際交流協会	多文化共生推進課シニアコーディネーター	事務局

（2）域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

●NPO やボランティア団体との連携・協力

- ・地域日本語教室運営団体を対象とした、ネットワーク構築のための会議・研修会等を開催するとともに、地域日本語教室の好事例普及のための仕組みを構築する。
- ・日本語教育人材に対する研修を通じて、地域日本語教育に係る人材を組織化し（人材バンクの構築）、本事業での講師・支援者・協力者等として、地域日本語教室や行政、企業等に赴くことのできる体制を構築する。

●区役所や国際交流ラウンジとの連携・協力

- ・地域日本語教育推進モデル事業は、該当の区役所や国際交流ラウンジと連携・協力して実施する。また、その取組実績等について、他の区役所や国際交流ラウンジへ情報共有を行い、次年度のモデル地域の拡充等、ひいては区域内の多文化共生のまちづくりにつなげる。

●他局との連携

- ・総合調整会議へ、学校教育課程における日本語教育事業を所管する市教育委員会事務局が参画することで、本事業の取組等を共有し、連携・協力を図る。

4 令和3年度の事業概要

1. 令和3年度の実施目標

・外国人住民に身近な存在である「地域日本語教室」を横浜市域の地域日本語教育推進のベースとして、教室間のネットワーキングを通して日本語指導力の強化や教室の活動内容の改善等、各教室の底上げが図られるような仕組みづくりを行う。

・「横浜市国際交流協会（YOKE）」は地域日本語教育の中核的な役割を担い、上記ネットワーク構築の支援、日本語学習支援者の発掘や養成、新たなニーズに応える日本語教室の開催などの実施を通し、地域における日本語教育を支援・推進する。

・市域日本語教育の推進に係る関係機関・団体等の有機的な連携の促進が図られる。

2. 実施内容

実施内容の概要について

令和3年度事業は、3本の柱、8つの取り組み（うち5つの重点取組）で構成し、事業を実施した。

（右概要図参照）

■事業の概要（3本の柱・8つの取組・5つの重点取組）

3本の柱、8つの取組により、事業を実施します。また、5つの重点取組を設定します。

基 盤

柱1
体制作り推進のための基盤の整備

取組1 総合調整会議
取組2 総括コーディネーター配置
地域日本語教育コーディネーター配置に向けた取組
取組3 域内における連携のための取組

（重点A）よこはま日本語学習支援センターの充実

取 組

柱2
市域における地域日本語教育の推進、連携

取組3 域内における連携のための取組
取組10 広報活動

（重点B）地域日本語教育推進モデル地域での展開

柱3
研修、地域日本語教育・支援

取組5 研修
取組6 地域日本語教育
取組9 付随した取組
取組11 ICT活用

（重点C）産業界等と連携した、新たな日本語教室の取組

（重点D）ICTの活用促進
（重点E）教室等の活動継続のための連携・支援

（注）「取組○（数字）」は、文化庁設定の取組番号に対応しており、4・7・8は該当なし。

■5つの重点取組説明

（重点A） 地域日本語教育の支援拠点の機能を充実させ、広報機能を強化します。
（重点B） モデル地域（区）と連携し日本語教室支援や関連団体とのネットワーク構築を進めます。
（重点C） 企業従業者に向けた職場や地域での「生活に必要な日本語教室」等を実施します。
（重点D） 教室以外でも日本語を学ぶ方法として、ICT教材の紹介やオンラインの講習を行います。
（重点E） 情報交換の場の設定やオンラインでの活動支援等、地域日本語教室をサポートします。

【必須項目】

（取組1）総合調整会議の設置

① 構成員

	氏名	所属	職名	役割
1	嶽肩 志江	横浜国立大学	非常勤講師	地域日本語教育
2	岩田 一成	聖心女子大学	教授	地域日本語教育
3	覃 道静	横浜市教育委員会	横浜市日本語講師	日本語教育・外国人当事者
4	丸山 伊津紀	認定 NPO 法人地球学校	理事長	NPO（地域日本語教室）
5	細谷 早里	関東学院大学	教授	多文化共生
6	林田 育美	都筑多文化・青少年交流プラザ	館長	NPO（多文化共生・青少年）
7	長岡 博司	翰林日本語学院	校長	日本語学校
8	増尾 和行	たちばな会特別養護老人ホーム 天王森の郷	総務部総務課課長	企業等
9	バンダリ マニサ	IT 企業勤務		外国人当事者

10	遠藤 亮介	横浜市中区総務部区政推進課	企画調整係長	オブザーバー
11	土屋 隆史	横浜市教育委員会事務局小中学校企画課	主任指導主事	オブザーバー
12	松本 貴之	横浜市国際局政策総務課	担当係長	オブザーバー
② 実施結果				
実施回数	3 回			
実施スケジュール	6 月 14 日 推進体制および事業の方向性について、事業内容について 11 月 22 日 事業の実施状況について 2 月 24 日 事業の実施状況、及び振り返り、今後の方向性について			
主な検討項目	・ 推進体制および事業の方向性、事業内容についての協議 ・ 各分野における地域日本語教育に係る情報・意見交換 ・ 事業の振り返り、及び今後の方向性についての協議 その他、総合調整会議の分科会として 3 つのプロジェクト推進ワーキンググループを開催した（テーマ：地域連携、担い手育成（研修）、日本語教室） 各 2 回 第 1 回：7・8 月、第 2 回：1・2 月			
（取組 2－1）総括コーディネーターの配置				
横浜の地域日本語教育や多文化共生に精通する、横浜市国際交流協会職員（1 名）を配置した。主な業務内容は以下のとおり。 ・ 総合調整会議、プロジェクト推進ワーキンググループの委員・メンバーとの連絡調整 ・ プログラムアドバイザーとの連絡調整 ・ 事業推進のためのスタッフ間連携推進 ・ モデル地域事業における区役所、地域日本語教室等との連絡、関係づくり、事業推進 ・ 企業向け日本語教室開催のための企業及び関連機関・組織との関係づくり ・ 地域日本語教室の活動状況把握とネットワーキング促進				
（取組 2－2）地域日本語教育コーディネーターの配置にむけた取組				
地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】 選択した取組に○を記入してください。 地域日本語教育コーディネーターの候補者の育成【(○)】 （1）地域日本語コーディネーターの配置 地域日本語教育コーディネーター3 名（うち、1 名は外国人当事者）を、横浜市国際交流協会に配置し、担当モデル地域事業を中心に、本事業における各取組の企画・運営・コーディネートを行った。また、総合調整会議や文化庁会議等に参加し、外部有識者等との情報交換を行った。 （2）地域日本語教育コーディネーターの候補者育成支援 国際交流ラウンジの日本語学習支援担当者を対象とした連絡会や、グループ運営・ボランティアマネジメントテーマとした地域日本語教室運営者向け研修会を開催した。また、モデル地域において地域日本語教室を巻き込んだ研修会企画や日本語教室企画運営などの取組を行うとともに、相談対応や各事業を通じて、支援者との対話を行う機会とした。文化庁「地域日本語教育コーディネーター研修」などの外部研修への参加を促した。				
（取組 2－3）調査・推進計画策定コーディネーターの配置				

なし
【重点項目】
(取組3) 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組
3-1 よこはま日本語学習支援センターの運営 【重点A】 【名称】 よこはま日本語学習支援センター 【時期】 4月1日(木)～3月10日(木) 【設置場所】 横浜市国際交流協会事務所内 【役割】 1. 地域日本語教育の総合的な体制づくりを進める基盤となる拠点 2. 外国人住民の日本語習得支援のための拠点 3-2 連携(連絡会、研修会の開催) 【重点A】 関係団体間のネットワーキング推進や教室運営の改善等に向け、地域日本語教室や国際交流ラウンジを対象とする連絡会や研修会等を開催した。 【名称】 横浜市国際交流ラウンジ協議会日本語分科会 【実施回数】 1回(1回2時間) 【受講者数】 30人 【実施場所】 オンライン(zoom) 【内容】 日本語教室の運営状況および日本語学習支援に関する情報交換 【開始した月】 7月 (開催日) 7月5日(月) 14:30-16:30 3-3 相談対応 日本語学習、支援に関わる相談対応 【重点A】 【名称】 YOKE にほんご相談室 【件数】 61件 ※よこはま日本語学習支援センターとしての相談、問い合わせを記録(多文化共生総合相談センター対応分は含まない) 【主な内容】・日本語学習支援希望(ボランティア希望・講座情報・日本語教師の求人) ・日本語教室を探している 3-4 相談対応 地域日本語教室への個別訪問 【重点A】 地域日本語教室や区役所等が抱える地域での地域日本語教育に係る課題の解決に伴走した。 【名称】 まちの日本語伴走隊 【件数】 3件 【依頼内容および依頼者】 1 日本語ボランティアブラッシュアップ講座の企画協力(国際交流ラウンジ) 2 日本語ボランティア入門講座の企画協力(国際交流ラウンジ) 3 日本語ボランティア入門講座の企画協力(国際交流ラウンジ) 3-5 広報・情報提供 情報冊子「にほんごコミュニケーション」の発行 【重点A】 【名称】 にほんごコミュニケーション

- 【発行】 通算 5～8 号（6 月 5 日、9 月 5 日、12 月 5 日、3 月 5 日）
 【部数】 通算 5・6 号各 2,000 部、7 号 2,200 部、8 号 2,500 部
 【言語】 日本語・英語
 （英語は web サイトで公開）
 【内容】 ・地域日本語教育に関する情報提供や、教室の取り組みなどの紹介
 ・日本語を勉強したい外国人の方向けページ（やさしい日本語版）
 【バックナンバー】 日本語 <https://yokohama-nihongo.com/magazine>
 英語 <https://yokohama-nihongo.com/en/nihongo-communication-multilingual-2>



3-6 広報・情報提供 ホームページの充実 【重点 A】

- 【内容】 よこはま日本語学習支援センターWEB サイトの公開
 【言語】 日本語・英語・その他言語は自動翻訳機能を活用
 【URL】 日本語版 <https://yokohama-nihongo.com/>
 英語版 <https://yokohama-nihongo.com/en/>

3-7 広報・情報提供 日本語教室データベースの運営 【重点 A】

- 【名称】 日本語・学習支援 教室データベース（横浜）
 【掲載数】 133 教室（2022 年 3 月現在）
 【URL】 <https://yokeweb.jp/>

3-8 地域日本語教室・学習支援教室へのアンケート実施 【重点 E】

- 【趣旨】 コロナ禍における地域日本語教室の活動継続状況につき、アンケートを実施した。
 【対象】 日本語・学習支援教室データベース（横浜）掲載団体（教室）

回	第 1 回	第 2 回
名称	日本語・学習支援教室の活動状況についてのアンケート	
実施時期	5 月	10 月
回収数／対象の教室	95 教室／137 教室（回収率 69%）	74 教室／135 教室（回収率 55%）
内容	1 教室の活動状況 2 参加者募集の有無→（学習者、指導スタッフ）	
その他	学習者／指導スタッフ募集中の教室リストを WEB サイトに掲載	

3-9 地域日本語教育推進モデル地域 【重点 B】

モデル地域の設定：3 区（磯子区・緑区・瀬谷区）

令和 2 年度対象の 2 地域（磯子区・緑区）での活動を継続するとともに、1 地域（瀬谷区）を新設した。よこはま日本語学習支援センターに配置した地域日本語教育コーディネーターが、当該地域と連携しながら区域での地域日本語教室支援や関連団体とのネットワーク構築等を進めるとともに、地域の状況・ニーズをベースとして、「地域日本語教育の総合的な体制作り推進事業」の各取組を組み合わせて実施した。

各モデル地域における取組内容

3-9-1＜磯子区＞

1. 連絡会への参加

- 【名称】 磯子区日本語教室連絡会および語学・国際交流団体情報交換会
 【実施回数】 3 回
 【内容】 区内で活動する日本語教室・国際交流団体間の、活動状況についての意見交換等
 【開始した月】 7 月
 （開催日） 7 月 8 日（木）、12 月 21 日（火）、2 月 18 日（金）

2 講座

講座 1

【名称】磯子で日本語ボランティア ブラッシュアップ講座

学習者同士のコミュニケーションを楽しむ日本語教室活動

～みんなで日本語教室活動を楽しみましょう！～

【目標】日本語ボランティアの活動の中で直面した疑問や支援方法のアイデア提供等を通して、ボランティアの問題解決または活動の活発化を促す。

【実施回数】2回（1回2時間）

【受講者数】16人（1か所）

【実施場所】横浜市社会教育コーナー

【受講者募集方法】地域日本語教室を通じた案内、公共施設（国際交流ラウンジ、区役所等）などでのチラシ配布等を通じた案内、SNS等による広報

【内容】1話したいことがたくさん話せるように。レアリア（生教材）等を使った活動例
2活動案を作って授業体験をする

【開始した月】12月

（開催日）12月7日（火）、14日（火）14時00分～16時00分

【講師】2人 うち「日本語教師」2人

【関係機関との連携】あり（横浜市磯子区役所と共催）

標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした

講座 2

【名称】使ってみよう、やさしい日本語

～地域にくらす多様な人と、気持ちのよいコミュニケーションを～

【目標】「やさしい日本語」の考え方と実践を学ぶことにより、外国人住民と日本人住民とが円滑にコミュニケーションができるようになる。

【実施回数】1回（1回2時間） 他1回は感染症拡大防止のため中止した

【受講者数】16人（16人×1か所）

【実施場所】横浜市社会教育コーナー

【受講者募集方法】区の広報紙、地域日本語教室を通じた案内、公共施設（国際交流ラウンジ、区役所、ボランティアセンター等）などでのチラシ配布等を通じた案内、SNS等による広報

【内容】やさしい日本語を知ろう～やさしい日本語の歴史と背景について～

【開始した月】1月

（開催日）1月18日（火）14時00分～16時00分

【講師】1人 「日本語教師」1人

【関係機関との連携】あり（横浜市磯子区役所と共催）

標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした

3 国際交流イベントへの協力

【名称】磯子区で国際交流やさしい日本語で折紙とトークを楽しみましょう！

【実施回数】1回（2時間）

【受講者数】25人

【実施場所】磯子区役所会議室

【内容】折り紙体験および市民との交流

【開始した月】12月

（開催日）12月19日（日）13時00分～15時00分

【講師】2人

3-9-2 <緑区>

1 事業企画運営にかかる会議

【名称】みどりプロジェクト

【実施回数】10回（1回1.5時間程度）

【参加者数】11人

【実施場所】オンライン（Zoom）・みどり国際交流ラウンジ

【内容】モデル地域（緑区）事業の検討、企画、運営および振り返り

【開始した月】7月

（開催日）7月8日（木）、9月14日（火）、10月5日（火）・19日（火）、

11月2日（火）、12月7日（火）・21日（火）、1月17日（月）・25日（火）、2月22日（火）

2 日本語教室

教室1（秋コース）

【名称】日本語教室「ようこそはんご@みどりく」秋コース

【目標】日常生活に役立つ知識や情報を得、日本語での会話を楽しめるようになる

【実施回数】4回（1回1.3時間）

【受講者数】14人（会場7人、オンライン7人）（インド9、韓国3、スリランカ1、中国1）

【実施場所】複合施設「霧の里」（霧が丘地域ケアプラザ）およびオンライン（zoom）

【受講者募集方法】地域日本語教室等への案内、公共施設（国際交流ラウンジ、区役所等）などでのチラシ配布等を通じた案内、SNS等による広報

【内容】トピックによる日本語学習（テーマ「お昼ごはん（ランチ）」）

第1回「昨日のひるごはん、何を食べましたか。」自分のことを話そう。

第2回「日本のひるごはん『お弁当』 日本のお弁当ってどんなもの？」

第3回「わたしのひるごはん」「特別な日の食べ物」～国では？日本では？

第4回「地域の方との交流会」 学習した日本語を使って会話しよう

【開始した月】11月

（開催日）11月29日（月）・12月6日（月）・13日（月）・20日（月）9:50-11:10

【講師】 2人 うち「日本語教師」2人

【関係機関との連携】あり（緑区役所と共催。区内日本語教室学習支援者が企画運営・広報協力、また、協力者として参加。みどり国際交流ラウンジ「やさしい日本語」講座と第4回交流会を合同で実施）

標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした

教室2（冬コース）

【名称】日本語教室「ようこそはんご@みどりく」冬コース

【実施回数】4回（1回1.3時間）

【受講者数】13人（インド10、韓国2、中国1）

【内容】トピックによる日本語学習（テーマ「健康」）

第1回「健康のために何をしていますか」 自分のことを話そう。

第2回「日本の健康法」 冬を元気にすごそう

第3回「私の健康法」 国では？日本では？ 健康でないとき

第4回「地域の方との交流会」 学習した日本語を使って会話しよう

【開始した月】1月

（開催日）1月31日（月）・2月7日（月）・14日（月）・21日（月）9:50-11:10

【関係機関との連携】あり（緑区役所と共催。区内日本語教室学習支援者と企画運営・広報協力、また、協力者として参加）

以下は、秋コースと同じ。

【目標】【実施回数】【受講者募集方法】【講師】標準的なカリキュラム案等の活用の有無

3-9-3 <瀬谷区>

1 ヒアリング

子育て支援団体、区社会福祉協議会、小学校等、区内関連団体等へのヒアリングにあたり、区役所に同行

2 講座

講座 1

瀬谷区役所が主催する以下の講座に協力した。

【名称】瀬谷区日本語ボランティア入門講座

【実施回数】5回（1回2時間）

【受講者数】47人（2か所）

【実施場所】瀬谷区役所会議室またはオンライン（zoom）

【内容】第1回 日本語ボランティアって何するの？

第2回 「やさしい日本語」を使ってみよう！

第3回 日本語っておもしろい！～日本語のしくみ～

第4回 日本語学習のいろいろ

第5回 「やさしい日本語」で交流会

【開始した月】10月

（開催日）10月24日・31日・11月7日・14日・21日（日）10:00-12:00

【講師】3人 「日本語教師」3人

【関係機関との連携】あり（瀬谷区役所に協力、区内地域日本語教室が交流会に参加、区内通訳・翻訳グループからゲストスピーカーを派遣他）

標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした

講座 2・教室 1

日本語教室体験研修（支援者にとっては研修、学習者にとっては日本語教室）として実施した。

【名称】日本語ボランティア入門講座フォローアップ研修

「瀬谷でつながる くらしの日本語～みんなで話そう～」

【目標】瀬谷区近郊の人々が集い日本語での会話を楽しみ、今後の交流につなげる。教室の準備や進捗を体験し、サポーターの活動を知る。

【実施回数】5回（1回2～3時間）

【受講者数】22人

【実施場所】瀬谷地区センターおよびオンライン（zoom）

【受講者募集方法】入門講座修了者への案内、WEBサイト

【内容】第1回 日本語教室に向けた事前研修

第2回 オンライン日本語教室開催に向けた準備

第3回 日本語教室での活動体験 1

第4回 日本語教室での活動体験 2

第5回 日本語教室での活動体験 3

【開始した月】1月

（開催日）1月16日（日）23日（日）10:00-12:00

1月30日（日）、2月6日（日）・13日（日）9:40-12:45

【講師】 1人 「日本語教師」1人

【関係機関との連携】あり（瀬谷区役所と共催。区内通訳・翻訳グループの開催支援として、チラシ翻訳・見守り保育・講師アシスタント派遣、県営およびUR団地の掲示板利用による広報など）

標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした

【名称】日本語教室「せやでつながる くらしのにほんご～みんなではなそう～」

【目標】生活で使う日本語を学び、日本語でできることが増える。話したいことを日本語で伝えられるようになる。

【実施回数】3回（1回1.3時間）

【受講者数】5人（中国2、アメリカ1、インド1、メキシコ1）

【実施場所】オンライン（zoom）

【受講者募集方法】区役所登録窓口・公共施設（国際交流ラウンジ）等でのチラシ配布等を通した案内・SNSを含めた媒体での広報、地域日本語教室等への案内

【内容】生活に関するトピックを中心にしたやりとりを通じて、日本語を使って交流する。

第1回 私の過去・現在・未来

第2回 私のおすすめ

第3回 買い物

【開始した月】 1月

（開催日）1月30日（日）、2月6日（日）・13日（日）10:20-11:40

【講師】4人 うち「日本語教師」1人

【関係機関との連携】あり（フォローアップ講座と同じ）

標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした

3-9-4 モデル地域連絡会

【実施回数】1回（1.5時間）

【受講者数】12人（1か所）

【実施場所】横浜市庁舎内会議室

【内容】モデル地域事業実施にあたり、関係者（磯子区役所、緑区役所、瀬谷区役所、市役所、YOKE）間での活動状況の共有、情報交換等

【開始した月】5月

（開催日）5月19日（水）

3-9-5 2020年度モデル地域活動報告会

市職員向け横浜市多文化共生セミナー（テーマ：地域日本語教育）として実施した。

【名称】行政による地域日本語教育の推進一意義と実例

～「こんにちは」から始める多文化共生の地域づくり～

【目標】地域日本語教育の総合的な体制作り推進事業の取り組みを紹介するとともに、その意義について理解をふかめる

【実施回数】1回（1.5時間）

【受講者数】88人

【実施場所】オンライン（zoom）および横浜国際協力センターGALERIO

【受講者募集方法】市役所イントラネット等による案内

【内容】基調報告「地域日本語教育がめざすこと」他

活動報告「2020年度地域日本語教育推進モデル地域での取組」

【開始した月】 7月 (開催日) 7月28日(水) 10:00-11:30 【講師】 1人 「日本語教師」1人 【関係機関との連携】あり(磯子区役所・緑区役所による事例発表)
(3) 地域日本語シンポジウムの開催 【名称】 まちの日本語プラットフォーム 2021 居場所におけるコミュニケーション～共にある場で紡がれる、ことばと関係性～ 【目標】 横浜市域における地域日本語教育の総合的な体制づくりへの取組を広く周知し、取り組みの現状の共有、さらには今後の展望や連携体制づくりのきっかけとする 【実施回数】 1回(1回2時間) 【受講者数】 125人(1か所) 【実施場所】 オンライン(zoom) 【受講者募集方法】 公共施設(国際交流ラウンジ、区役所、ボランティアセンター等)などでのチラシ配布等を通じた案内、SNS等による広報、 【内容】 コーディネーターからの趣旨説明 登壇者報告 パネルディスカッションと質疑応答「多文化共生の居場所づくりに向けたディスカッション」 (終了後)参加者の交流タイム 【開始した月】 2月 (開催日) 2月19日(土) 10:00-12:00 【講師(コーディネーターおよびコメンテーター)】 2人 うち「日本語教師」1人
(取組4) 市区町村への意識啓発のための取組
なし
(取組5) 日本語教育人材に対する研修(研修受講者数(実人数):364人)
5-1 日本語教室運営者等向けの研修 【名称】 地域日本語教室のグループ運営をふりかえろうーそして前に進もうー 【目標】 グループ運営やコーディネート面から活動をふりかえり、困り感の解決のヒントを得る。 【実施回数】 2回(1回2.5時間) 【対象および受講者数】 横浜市内の地域日本語教室等の運営やコーディネートを行う人24人 【実施場所】 オンライン(zoom) 【受講者募集方法】 メール等による地域日本語教室を通じた案内、公共施設(国際交流ラウンジ、区役所等)などでのチラシ配布等を通じた案内、SNS等による広報 【内容】 第1回 グループの運営、どうしていますか? 第2回 ボランティアグループ、困りごとあるある ・自分たちのグループ運営をふりかえる。 ・運営についての困り感とその対応、解決策のヒント。 ・ボランティアグループの特徴を知る。 【開始した月】 2月 (開催日) 2月18日(金)、25日(金) 14:00-16:30 【講師】 1人 【関係機関との連携】あり(認定NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会、講師派遣) 標準的なカリキュラム案等の活用の有無:無

5-2 入門研修（一般向けコース）

- 【名称】日本語ボランティア入門講座～横浜で始めよう！日本語ボランティア
- 【目標】日本語学習支援に必要な多文化共生のための日本語学習支援の考え方、心構え、支援の方法を学ぶ。
- 【実施回数】5回（1回2時間）
- 【受講者数】28人（1か所）
- 【実施場所】オンライン（zoom）
- 【受講者募集方法】メール等による地域日本語教室を通じた案内、公共施設（国際交流ラウンジ、区役所等）などでのチラシ配布等を通じた案内、SNS等による広報
- 【内容】第1回 日本語ボランティアって何をする人？
第2回 多文化共生のための「やさしい日本語」って？
第3回 外国の人にとって、「日本語」ってどんなことば？
第4回 日本語教室ってどんなところ？
第5回 第1部 次の一步をふみだそう！
第2部 地域日本語教室の皆さんと交流しよう！（地域日本語教室との交流会）
- 【開始した月】10月
- （開催日）10月8日・22日・29日・11月5日・12日（金）13：30－15：30
11月12日（金）13：30－16：30
- 【講師】2人 うち「日本語教師」2人
- 【関係機関との連携】あり（横浜市内の地域日本語教室、交流会への参加）
- 【その他】地域日本語教室向けに、講座説明会を行った。9月22日（水）14:00-15:00 オンライン開催、参加者9団体13人
- 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした

5-3 入門研修（外国人対象コース）「外国の方向け日本語ボランティア入門講座」

- 【名称】「外国の方向け 日本ボランティア入門講座
～あなたの経験を活かした、日本語教室での活動を考えましょう～」
- 【目標】日本語学習経験者である外国人が当事者としての自分の強みを見つけ、日本語教室での活動をしてみたい気持ちになり、今後実際に活動を始める道筋を作る。
- 【実施回数】3回（1回2時間）
- 【受講者数】9人（中国6、インド1、タイ1、ミャンマー1）
- 【実施場所】オンライン（zoom）
- 【受講者募集方法】メール等による地域日本語教室を通じた案内、公共施設（国際交流ラウンジ、区役所等）などでのチラシ配布等を通じた案内、SNS等による広報
- 【内容】第1回「日本語ボランティアとは？」
第2回「理想の日本語教室について話し合う」
第3回「日本語支援を始めてみよう！」
その他、地域日本語教室でのボランティア体験
- 【開始した月】2月
- （開催日）2月4日（金）、18日（金）、25日（金）10:00-12:00
- 【講師】1人（日本語教師）
- 【関係機関との連携】あり（地域日本語教室および学習支援者。教室見学・体験の受入れおよび第2回講座への参加）

5-4 ブラッシュアップ研修

- 【名称】日本語ボランティア ブラッシュアップ講座
「相手も自分も大事にする日本語教室を目指そう！」

【目標】テーマについての講義、話し合いなどを通して受講者が知り合い、教室を超えた交流をする場とし、ゆるやかなつながりをつくるとともに、今後の日本語支援活動の充実を図ります。

【実施回数】2回（1回2時間）

【受講者数】63人（2か所）（講座1 32人・講座2 31人）

【実施場所】オンライン（zoom）

【受講者募集方法】メール等による地域日本語教室を通じた案内、公共施設（国際交流ラウンジ、区役所等）などでのチラシ配布等を通じた案内、SNS等による広報

【内容】講座1 日本語教室で知っておきたい「著作権」
講座2「悪気はなかったんだけど・・・」ーあなたも私もしているかもしれない、無意識の差別ー

【開始した月】3月
（開催日）3月3日（木）、5日（土）10:00-12:00

【講師】2人 うち「日本語教師」1人

標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無

5-5 ICT活用講座「支援者向けオンライン日本語学習支援講座」（参加編）【重点D・E】

5-6 ICT活用講座「支援者向けオンライン日本語学習支援講座」（開催編）【重点D・E】

地域日本語教室の活動継続支援としての、ICT（オンライン）活用講座。ステップを踏んで、オンラインで、また、オンライン学習教材を活用した日本語教室に、段階的になじんでいけるように構成した。

講座1（参加編）

【名称】ビデオ会議システムZoomを使ってみよう（参加編）

【目標】ビデオ会議システムへの参加方法と簡単な機能の使い方がわかる。参加者として安心して参加できるようになる。

【実施回数】3回（1回1.5時間）

【受講者数】39人（3か所）

【実施場所】オンライン（zoom）

【受講者募集方法】メール等による地域日本語教室を通じた案内、公共施設（国際交流ラウンジ、区役所等）などでのチラシ配布等を通じた案内、SNS等による広報

【内容】ビデオ会議システムへの参加方法／簡単な機能の使い方／参加者の情報交換など

【開始した月】5月
（開催日）5月18日（火）14:30-16:00、6月12日（土）10:00-11:30、
9月22日（水）13:30-15:00

【講師】5人 うち「日本語教師」3人

標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無

講座2（開催編）

【名称】ビデオ会議システムZoomを使ってみよう（開催編）

【目標】主催者としてミーティングを開くための注意点、役に立つ操作方法が分かる

【実施回数】5回（1回1.5～2時間）

【受講者数】103人（5か所）

【実施場所】オンライン（zoom）

【受講者募集方法】メール等による地域日本語教室を通じた案内、公共施設（国際交流ラウンジ、区役所等）などでのチラシ配布等を通じた案内、SNS等による広報

【内容】オンライン会議の運営方法、日本語学習支援での実践例、参加者の情報交換等

【開始した月】5月
（開催日）5月25日（火）14:30-16:00、6月19日（土）10:00-11:30、

7月19日（月）14:30-16:15、8月20日（金）13:30-15:30、
9月29日（水）13:30-15:30

【講師】 5人 うち「日本語教師」3人
標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無

講座3（参加編および開催編）

【名称】ビデオ会議システム Zoom を使ってみよう（12月コース・1月コース）

【実施回数】4回（1回2時間）

【受講者数】25人（4か所）

【実施場所】オンライン（zoom）および横浜国際協力センター会議室（ハイブリッド形式）

【受講者募集方法】メール等による地域日本語教室を通じた案内、公共施設（国際交流ラウンジ、
区役所等）などでのチラシ配布等を通じた案内、SNS 等による広報

【開始した月】 12月

（開催日）

以下は、参加編・開催編と同じ。

【目標】【受講者募集方法】【内容】【講師】

5-7 ICT 活用講座「支援者向けオンライン日本語学習支援講座」（活用編）【重点 D・E】

講座1（夏期）

【名称】オンライン日本語学習教材を活用してみよう（夏期）

【目標】オンライン教材（「つながるひろがるにほんごでの暮らし」）を活用した支援方法を学ぶ

【実施回数】2回（1回2時間）

【受講者数】32人（1か所）

【実施場所】オンライン（zoom）

【受講者募集方法】メール等による地域日本語教室を通じた案内、公共施設（国際交流ラウンジ、
区役所等）などでのチラシ配布等を通じた案内、SNS 等による広報

【内容】第1回 オンライン日本語学習サイトを活用した日本語学習支援を体験しよう

第2回 より楽しく！オンライン日本語学習支援の実践に向けて

【開始した月】8月

（開催日）8月20日（金）・27日（金）10:00-12:00

【講師】 1人 「日本語教師」1人

【関係機関との連携】あり（社会福祉法人さぼうと 21 から講師派遣）

標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした

講座2（秋期）

【名称】オンライン日本語学習教材を活用してみよう（秋期）

【実施回数】2回（1回2時間）

【受講者数】30人（1か所）

【開始した月】10月

（開催日）10月28日（木）・11月4日（木）19:00-21:00

以下は、夏期と同じ。

【目標】【実施場所】【受講者募集方法】【内容】【講師】【関係機関との連携】標準的なカリキュラム
案等の活用の有無

5-8 日本語教育人材の活躍促進・5-8-1 関連事業「よこはま地域日本語実践もちより会」

- ・ブラッシュアップ研修修了者を中心として、地域日本語教育に係る人材を組織化し（人材バンクの構築）、本事業での講師・支援者・協力者等として事業に参画し、また、地域日本語教室や行政、企業等に赴くことのできる体制を構築する予定であった。しかし、コロナ禍において日本語学習支援活動の状況も大きく変化している状況などを鑑み、活躍促進の枠組み作りについては今後の検討課題とした。
- ・なお、過年度研修受講修了者を対象とした、地域日本語教室等での活動実践者の情報交換会「よこはま地域日本語実践もちより会」を実施した（7月21日（水）オンラインにて。参加者11人）。

5-9 （取組3）地域日本語教育推進モデル地域事業として実施した研修 【再掲】【重点B】

3-9-1 モデル地域：磯子区 【再掲】

講座1

【名称】磯子で日本語ボランティア ブラッシュアップ講座
学習者同士のコミュニケーションを楽しむ日本語教室活動
～みんなで日本語教室活動を楽しみましょう！～

【実施回数】2回（1回2時間）

【受講者数】16人（1か所）

【実施場所】横浜市社会教育コーナー

【開始した月】12月

（開催日）12月7日（火）、14日（火）14時00分～16時00分

講座2

【名称】使ってみよう、やさしい日本語
～地域にくらす多様な人と、気持ちのよいコミュニケーションを～

【実施回数】1回（1回2時間）他1回は感染症拡大防止のため中止した

【受講者数】16人（16人×1か所）

【実施場所】横浜市社会教育コーナー

【開始した月】1月

（開催日）1月18日（火）14時00分～16時00分

3-9-3 モデル地域：瀬谷区 【再掲】

【名称】日本語ボランティア入門講座フォローアップ研修「瀬谷でつながる くらしの日本語～みんなで話そう～」

【実施回数】5回（1回2～3時間）

【受講者数】20人

【実施場所】瀬谷地区センターおよびオンライン（zoom）

【開始した月】1月

（開催日）1月16日（日）23日（日）10:00-12:00

1月30日（日）、2月6日（日）・13日（日）9:40-12:45

（取組6）地域日本語教育の実施取り組んだものに○

【○】都道府県・政令指定都市が主催する地域日本語教育

【 】日本語教育実施機関団体等への地域日本語教育

実施箇所数	9箇所	受講者数 (実人数)	122人
-------	-----	---------------	------

活動 1 既設	6-1 企業従業者向け日本語教室 【重点C】 【名称】横浜で「たのしくはたらく」日本語教室 【目標】外国人が職場や地域での生活において、役立つ知識とともに日本語能力を習得する 【実施回数】10 回（1 回 1.5 時間） 【受講者数】10 人（1 か所） 【実施場所】オンライン（zoom） 【受講者募集方法】経済団体との連携を通じた市内中小企業への案内、その他、就労・労働関連施設などでの案内・SNS を含めた媒体での広報 【内容】職場等におけるコミュニケーションスキルアップを目指す内容（日本の文化・慣習や横浜市域の生活情報などを含む） （例）日本の社会と日本人の特徴／コミュニケーション力アップの秘訣 雑談で円滑な関係を築く／わかりやすく説明するヒント／ 報告・連絡のステップ／上手に相談する／敬語トレーニング（基礎・応用） 異文化間コミュニケーション 【開始した月】11 月 （開催日）11 月 21 日・28 日、12 月 5 日・12 日・19 日、1 月 9 日・16 日・23 日・30 日、2 月 6 日（日） 10:00-11:30 【講師】2 人 うち「日本語教師」2 人 【関係機関との連携】あり（市工業連合会および横浜市経営支援財団から、企業への橋渡しや広報協力を得た。横浜市内の企業数社からニーズ聞き取りや従業員の教室参加などを得た） 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした
活動 2 既設	6-2 外国人親子日本語教室 教室 1 【名称】外国人親子日本語教室 「おやこで にほんごーともだちに なろう（オンライン）」 【目標】子育て、子どもの成長を支援するうえで学んでおくべき知識と、それに関連した日本語能力を習得することを通して、子育ての今後の見通しを立てる一助とする。子育ての情報や相談等地域とのつながり作りも視野に入れる。「オンライン版」は、コロナ禍で外出もままならない親子が家で安心して参加できる日本語教室として開催する。 【実施回数】3 回（1 回 2 時間） 【受講者数】親子 7 組 計 16 人（親 7 人、子 9 人） （タイ 2、フィリピン 4、ベトナム 2、中国 5、シンガポール 3） 【実施場所】オンライン（zoom） 【受講者募集方法】地域子育て支援拠点・団体を通じた案内、区役所登録窓口・公共施設（国際交流ラウンジ）等での案内・SNS を含めた媒体での広報 【内容】第 1 回「なかよし」 第 2 回「あそび」、 第 3 回「からだ」 【開始した月】8 月 （開催日）8 月 5 日・8 月 19 日・9 月 2 日（木）10:00-12:00 【講師】1 人 「日本語教師」 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした

	教室 2 【名称】「おやこでにほんご～つるみであそぼう はなそう～」 【目標】子育て、子どもの成長を支援するうえで学んでおくべき知識と、それに関連した日本語能力を習得することを通して、子育ての今後の見通しを立てる一助とする。子育ての情報や相談等地域とのつながり作りも視野に入れる。鶴見国際交流ラウンジと連携することにより、鶴見区内において、親子で日本語が学べ、子育て情報が得られ、つながりが作れる機会を提供する。 【実施回数】2回（1回2時間） 【受講者数】親子7組 計22人（親8人、子14人） （中国6人、イエメン13人、日本／中国2人、ペルー1人） 【実施場所】鶴見中央コミュニティハウス・鶴見国際交流ラウンジ 【受講者募集方法】地域子育て支援拠点・団体を通じた案内、区役所登録窓口・公共施設（国際交流ラウンジ）等での案内・SNSを含めた媒体での広報 【内容】第1回「幼稚園・保育園」 第2回「小学校」 【開始した月】12月 （開催日）12月11日（土）・1月5日（水）10:00-12:00 【講師】2人 うち「日本語教師」1人 【関係機関との連携】あり（鶴見国際交流ラウンジ外国人親子カンガルーサロンが企画運営に参画・広報協力他） 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした
活動3 既設	6-3 初期日本語教室 【名称】「はじめての横浜 日本語で話そう」 【目標】日本語を学習した経験がない、または学習を始めたばかりの外国人がコミュニケーション初歩のあいさつ言葉などを学習する。また、横浜で暮らすために必要となる情報を得、地域での活動につながるようにする。 【実施回数】全10回（1回1.25時間） 【受講者数】17人（1か所） （中国8・韓国3・インド1・インドネシア1・スリランカ1・タイ1・ネパール1・フランス1） 【実施場所】オンライン（Zoom） 【受講者募集方法】区役所登録窓口・公共施設（国際交流ラウンジ）等でのチラシ配布等を通じた案内・SNSを含めた媒体での広報 【内容】あいさつ／お礼と謝ることば／すみません、よくわかりません／わかりますか・できますか／日本語で何と言いますか。／よろしく願います／東京に住んでいます／自己紹介 〈情報コーナー〉 無料施設の紹介（図書館、野毛山動物園）／電車、バスの乗り方 防災情報／横浜市多文化共生総合相談センター紹介／ 地域の日本語教室を紹介など 【開始した月】1月 （開催日）1月20日（木）・25日（火）・27日（木）、2月3日（木）・8日（火）・10日（木）・15日（火）・17日（木）・22日（火）・24日（木）14:00-15:15 【講師】3人 「日本語教師」3人 【関係機関との連携】あり（認定NPO法人地球学校から講師派遣、独立行政法人国際交流基金から学習教材「いそどり」活用にあたっての助言）

	標準的なカリキュラム案等の活用の有無：有
活動 4 既設	6-4 ICT 活用日本語教室 <u>日本語学習者向け「オンライン教材を活用した日本語教室」【重点 D・E】</u> 教室 1(夏期) 【名称】日本語教室「よこはまでつながる くらしの日本語」(夏期) 【目標】オンライン学習教材を活用した日本語学習経験への参加を通して、学習者がオンライン学習教材を使って学習する契機となる。また、幅広い学習の選択肢を提供し、自律学習へとつながる機会とする。 【実施回数】5 回 (1 回 1.5 時間) 【受講者数】10 人 (1 か所) (インド 3、中国 2、シンガポール 1、スリランカ 1、台湾 1、ベトナム 1、香港 1) 【実施場所】オンライン (zoom) 【受講者募集方法】地域日本語教室等への案内、公共施設 (国際交流ラウンジ、区役所等) などでのチラシ配布等を通じた案内、SNS 等による広報 【内容】オンライン教材 (「つながるひろがるにほんごでのくらし」) を活用した日本語学習 第 1 回 上手に買い物しよう 第 2 回 病院でどうする 第 3 回 薬局で薬を買おう 第 4 回 これはなんのゴミ? 第 5 回 災害のとき、どうする 【開始した月】9 月 (開催日) 9 月 3 日・10 日・17 日・24 日・10 月 1 日 (金) 10:00-11:30 【講師】1 人 「日本語教師」1 人 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：有 教室 2 (秋期) 【名称】日本語教室「よこはまでつながる くらしの日本語」(秋期) 【受講者数】15 人 (1 か所) (中国 4、韓国 4、インド 3、イラン 1、ブラジル 1、ベトナム 1、香港 1) 【開始した月】11 月 (開催日) 11 月 11 日 (木)・15 日 (月)・18 日 (木)・22 日 (月)・25 日 (木) 19:15-20:45 以下は、夏期と同じ。 【目標】【実施回数】【実施場所】【受講者募集方法】【内容】【講師】【関係機関との連携】標準的なカリキュラム案等の活用の有無
活動 5 既設	6-5 (取組 3) 地域日本語教育推進モデル地域事業として実施した日本語教室 <緑区> 【再掲】【重点 B】 教室 1 (秋コース) 【名称】日本語教室「ようこそにはんご@みどりく」秋コース 【目標】日常生活に役立つ知識や情報を得、日本語での会話を楽しめるようになる 【実施回数】4 回 (1 回 1.3 時間) 【受講者数】14 人 (会場 7 人、オンライン 7 人) (インド 9、韓国 3、スリランカ 1、中国 1) 【実施場所】複合施設「霧の里」(霧が丘地域ケアプラザ) およびオンライン (zoom)

	【受講者募集方法】地域日本語教室等への案内、公共施設（国際交流ラウンジ、区役所等）などでのチラシ配布等を通じた案内、SNS 等による広報 【内容】トピックによる日本語学習（テーマ「お昼ごはん（ランチ）」） 第1回「昨日のひるごはん、何を食べましたか。」自分のことを話そう。 第2回 日本のひるごはん『お弁当』日本のお弁当ってどんなもの？ 第3回「わたしのひるごはん」「特別な日の食べ物」～国では？日本では？ 第4回「地域の方との交流会」学習した日本語を使って会話しよう 【開始した月】11月 （開催日）11月29日（月）・12月6日（月）・13日（月）・20日（月）9:50-11:10 【講師】2人 うち「日本語教師」2人 【関係機関との連携】あり（緑区役所と共催。区内日本語教室学習支援者と企画運営・広報協力、また、協力者として参加。みどり国際交流ラウンジ「やさしい日本語」講座と第4回交流会を合同で実施） 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした 教室2（冬コース） 【名称】日本語教室「ようこそほんご@みどりく」冬コース 【実施回数】4回（1回1.3時間） 【受講者数】13人（インド10、韓国2、中国1） 【内容】トピックによる日本語学習（テーマ「健康」） 第1回「健康のために何をしていますか」自分のことを話そう。 第2回「日本の健康法」冬を元気にすごそう 第3回「私の健康法」国では？日本では？健康でないとき 第4回「地域の方との交流会」学習した日本語を使って会話しよう 【開始した月】1月 （開催日）1月31日（月）・2月7日（月）・14日（月）・21日（月）9:50-11:10 【関係機関との連携】あり（緑区役所と共催。区内日本語教室学習支援者と企画運営・広報協力、また、協力者として参加） 以下は、秋コースと同じ。 【目標】【実施回数】【受講者募集方法】【講師】標準的なカリキュラム案等の活用の有無
活動6 既設	6-5 （取組3）地域日本語教育推進モデル地域事業として実施した日本語教室 <瀬谷区>【再掲】【重点B】 【名称】日本語教室「せやでつながる ぐらしのほんご～みんなではなそう～」 【目標】生活で使う日本語を学び、日本語でできることが増える。話したいことを日本語で伝えられるようになる。 【実施回数】3回（1回1.3時間） 【受講者数】5人（中国2、アメリカ1、インド1、メキシコ1） 【実施場所】オンライン（zoom） 【受講者募集方法】区役所登録窓口・公共施設（国際交流ラウンジ）等でのチラシ配布等を通じた案内・SNSを含めた媒体での広報、地域日本語教室等への案内 【内容】生活に関するトピックを中心にしたやりとりを通じて、日本語を使って交流する。 第1回 私の過去・現在・未来 第2回 私のおすすめ 第3回 買い物

	【開始した月】 1月 (開催日) 1月30日(日)、2月6日(日)・13日(日) 10:20-11:40 【講師】4人 うち「日本語教師」1人 【関係機関との連携】あり(フォローアップ講座と同じ) 標準的なカリキュラム案等の活用の有無:参考にした
その他の取組(取組7～14のうち、取り組んだものについて記載)	
<u>(取組9) 地域日本語教育に付随して行われる取組</u>	
9-1 企業向け異文化間理解講座 【名称】外国人スタッフに伝える!伝わる!異文化間コミュニケーション講座 【実施回数】1回(1.6時間) 【受講者数】19人(1か所) 【実施場所】オンライン(zoom) 【受講者募集方法】経済団体との連携を通じた市内中小企業への案内、その他、就労・労働関連施設などでの案内・SNSを含めた媒体での広報 【内容】外国人雇用の現状/外国人就労者にみられる特徴と企業の悩み/異文化間コミュニケーション 【開始した月】3月 (開催日)3月4日(金)16:00-17:40 【講師】1人 「日本語教師」1人 【関係機関との連携】あり(公益財団法人横浜企業経営支援財団、一般社団法人横浜市工業会連合会が広報協力等) 9-2 学習者向けにほんご交流会 【名称】オンラインおしゃべり交流会「ほっとタイム NIHONGO ではなそう!」 うち1回は特別編「留学生と話そう!」 【実施回数】13回(1回1時間) 【受講者数】67人 【実施場所】オンライン(zoom) 【受講者募集方法】地域日本語教室を通じた案内、公共施設(国際交流ラウンジ、区役所等)などでのチラシ配布等を通じた案内、SNS等による広報 【内容】日本語を勉強している人(外国人など)が、毎回のトピックをもとに日本語で楽しく交流する集まり 【開始した月】4月 (開催日)4月15日(木)、5月20日(木)、6月8日(火)、7月6日(火) 8月10日(火)、9月7日(火)、10月5日(火)、11月9日(火) 12月7日(火)、1月11日(火)、2月8日(火)、3月8日(火) 10:30-11:30 特別編11月19日(金)18:00-19:30 【関係機関との連携】あり(横浜市国際学生会館(企画、ゲストスピーカー(留学生)の調整)	
<u>(取組10) 日本語教育に関する広報活動</u>	
<u>(3-5) 情報冊子「にほんごコミュニケーション」の発行</u> 【再掲】【重点A】	
【名称】にほんごコミュニケーション 【実施回数】年4回発行	

(3-6) 広報・情報提供：ホームページの充実 【再掲】【重点A】

【名称】よこはま日本語学習支援センター

【実施回数】随時更新

(3-7) 日本語教室データベースの運営 【再掲】【重点A】

【名称】日本語・学習支援 教室データベース（横浜）

【実施回数】随時更新

(3-8) 地域日本語教室・学習支援教室へのアンケート実施 【再掲】【重点E】

【名称】日本語・学習支援教室の活動状況についてのアンケート

【実施回数】2回

(取組11) ICTを活用した教育・支援 【重点取組D・E】

5-5 ICT活用講座「支援者向けオンライン日本語学習支援講座」(参加編) 【再掲】

5-6 ICT活用講座「支援者向けオンライン日本語学習支援講座」(開催編) 【再掲】

講座1(参加編)

【名称】ビデオ会議システムZoomを使ってみよう(参加編)

【実施回数】3回(1回1.5時間)

講座2(開催編)

【名称】ビデオ会議システムZoomを使ってみよう(開催編)

【実施回数】5回(1回1.5～2時間)

講座3(参加・開催編)

【名称】ビデオ会議システムZoomを使ってみよう(12月コース・1月コース)

【実施回数】4回(2回×2コース) 1回2時間

5-7 ICT活用講座「支援者向けオンライン日本語学習支援講座」(活用編) 【再掲】【重点D・E】

【名称】「支援者向けオンライン日本語学習支援講座～オンライン日本語学習教材を活用してみよう～」(夏期・秋期)

【実施回数】4回(2回×2コース) 1回2時間

6-4 ICT活用日本語教室 日本語学習者向け「オンライン教材を活用した日本語教室」 【再掲】

【重点A】

【名称】日本語教室「よこはまでつながる 暮らしの日本語」(夏期・秋期)

【実施回数】4回(5回×2コース) 1回2時間

(その他) 他団体主催事業での発表等

1 シンポジウム

【名称】 令和 3 年度 かながわ地域日本語教育フォーラム～日本語学習の支援を通して
外国人が働きやすい職場を考える

【役割】 事例発表者およびパネリスト

【開始した月】 1 月

(開催日) 1 月 23 日 (日) 14:00-16:00

【主催】 公益財団法人かながわ国際交流財団

2 セミナー

【名称】 文化庁委託『令和3年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消
推進事業 ICTを活用した「生活者としての外国人」のための日本語学習コンテンツの
作成・提供業務事業』活用オンラインセミナー
—つなひろの新機能と地域での活用事例—

【役割】 事例発表者

【開始した月】 2 月

(開催日) 2 月 15 日 (火) 14:00-15:15

【主催】 文化庁国語課

2-2. 市区町村の日本語教育の取組への支援

(取組 1 5) 市区町村を支援して実施する日本語教育

なし

(取組 1 6) 取組 1 5 以外の日本語教育を行う団体を支援して実施する日本語教育

なし

3. 効果

(1) 令和3年度の実施目標に対する評価

① 令和3年度の実施目標 (年度当初に設定した目標を再掲)

- ・外国人住民に身近な存在である「地域日本語教室」を横浜市域の地域日本語教育推進のベースとして、教室間のネットワーキングを通して日本語指導力の強化や教室の活動内容の改善等、各教室の底上げが図られるような仕組みづくりを行う。
- ・「横浜市国際交流協会 (YOKE)」は地域日本語教育の中核的な役割を担い、上記ネットワーク構築の支援、日本語学習支援者の発掘や養成、新たなニーズに応える日本語教室の開催などの実施を通し、地域における日本語教育を支援・推進する。
- ・市域日本語教育の推進に係る関係機関・団体等の有機的な連携の促進が図られる。

③ 達成状況

- ・計画した事業は、概ね実施した。

(2) 個別の取組に対する評価

① 定量評価

- ・総合調整会議：前年度（ 3 ）回 当年度（ 3 ）回
- ・総括コーディネーター配置数：前年度（ 1 ）人 当年度（ 1 ）人
- ・地域日本語教育コーディネーター配置数：前年度（ 2 ）人 当年度（ 3 ）人
- ・実施した日本語教育人材に対する研修：前年度（22）回（11 箇所） 当年度（37）回（11 箇所）
- ・実施した日本語教室：前年度（31）回（6 箇所） 当年度（46）回（9 箇所）

①ー2 実施計画書において設定した目標に対する定量評価

- 日本語教育人材に対する研修（取組 5、取組 11）参加人数：364 人
- 地域日本語教育の実施（取組 6） 企業従業員向け日本語教室の延べ参加人数：44 人
- 事業連携団体数：160 団体（うち、企業との連携数 6 社）

② 定性評価

ここでは、設定した目標について、下記「5つの重点取組」(※)のうち、講座実施等を行った B, C, D +E より評価を行う。

（重点 A）よこはま日本語学習支援センターの充実

（重点 B）地域日本語教育推進モデル地域での展開

（重点 C）産業界等と連携した、新たな日本語教室の取組

（重点 D）ICT の活用促進

（重点 E）教室等の活動継続のための連携・支援

なお、事業効果の評価の手法としては、総合調整会議で委員に説明、意見交換を行うとともに、総合調整会議委員（以下、「委員」という。）から事後にコメントをいただいた。

(i) 連携機関の広がりについて

(ii) 新たな連携機関と連携した内容

（重点 B）地域日本語教育推進モデル地域での展開（3-9）

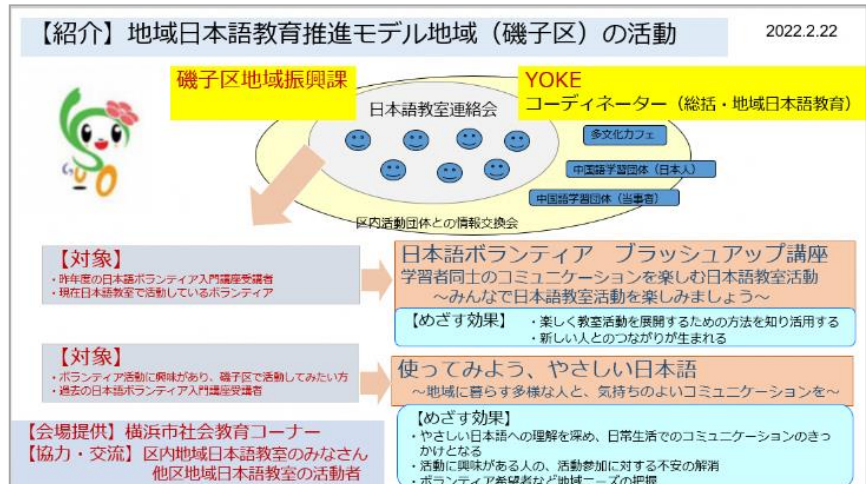
〈連携機関〉

各モデル地域（区役所）と協働で実施。その他の連携機関として、地域日本語教室、地域国際交流団体、外国人当事者グループ、外国人親子支援団体、国際交流ラウンジ、住宅都市整備公団（UR）、地域子育て支援拠点などと連携した。

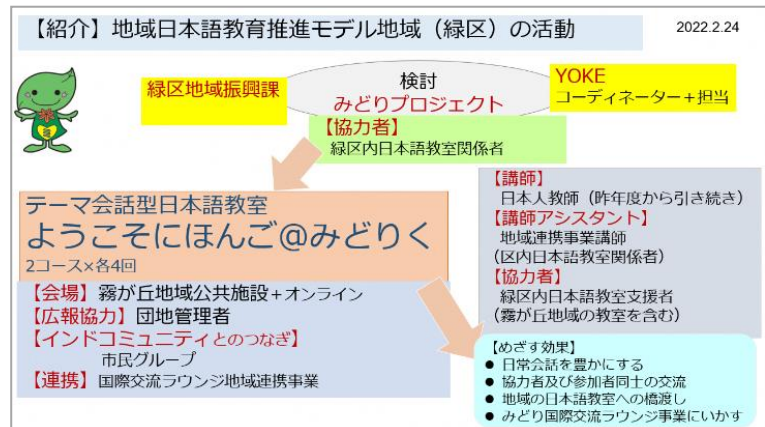
〈連携内容〉

「取組 3-9 地域日本語教育推進モデル地域」では、地域日本語教育推進モデル地域を 3 区設定し、地域ニーズの把握、連絡会等の開催を通して当該区役所及び地域日本語教室等民間支援団体、その他地域の各機関と連携が進んだ。それぞれ区地域振興課と覚書を交わし、事業を進めた。

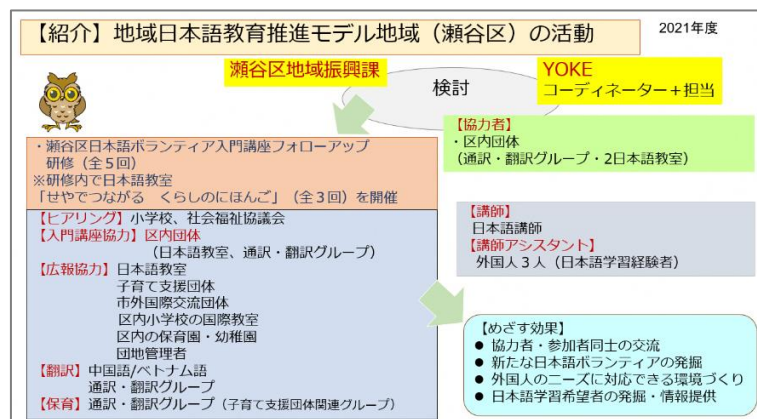
2年目の磯子区では今年度、活動者向けのブラッシュアップ講座（全2回）、入門の入門的位置づけのやさしい日本語講座（全2回、うち1回は感染拡大により中止）を実施し、地域日本語教室ボランティアがサポーターとして参加、質問対応、地域の教室紹介等が行われた。地域日本語教室連絡会を区主導で2回実施し、支援者ニーズの把握が行われた。連絡会参加者からは、継続的な集まりの実現により顔の見える関係が出来てきたこと、2回目には地域の国際交流団体の参加も呼びかけたことから久しぶりに多文化共生に関わる団体が一堂に会したことへの評価と今後の相互協力への前向きな声が聴かれた。当事業で協力した磯子区主催の国際交流イベントでも、地域日本語教室による学習者の紹介等が行われた。



2年目の緑区では、1年目の取り組みを発展させ、外国人集住地域の団地において初期日本語教室（全4回×2コース）を、区役所、関係団体、外国人住民、UR等との連携・サポートを得て実施した。当該地域で活動する支援団体の協力を得たこと、また、会場とオンライン併用のハイフレックス方式で実施したことが、参加者増に反映した。今年度開設された緑区国際交流ラウンジによる「地域連携事業」との連携企画も実施し、団体間のネットワークワーキングを目指した。



初年度の瀬谷区では、区が実施した日本語ボランティア入門研修（全5回）で、運営協力を行った。続いて、研修受講者を対象とした日本語フォローアップ研修（日本語教室）（全5回）を区役所と共催で行った。ここでは日本語教室（全3回）を受講者が体験した。これら講座の企画・開催にあたっては、主催者だけでなく地域子育て支援拠点、外国人当事者グループ、地域日本語教室、広報にあたっては県営団地やUR、区外・隣接地域の国際交流団体等の協力をえた。講師アシスタントとして、日本語学習経験者が関わった。参加者は今後の活動への意欲が高く、新たな教室の立ち上げにつながった。



(重点C) 産業界等と連携した、新たな日本語教室の取組(取組 6-1)

〈連携機関〉

業界団体（横浜市工業連合会、横浜企業経営支援財団）、企業（2社）、日本語教育関連企業（2社）、留学生が在籍する横浜市内の大学他

〈連携内容〉

「(取組 6-1) 企業従業員向け日本語教室『よこはまで楽しくはたらくための日本語教室』」では、昨年度外国人従業員受講企業に日本語学習ニーズをヒアリングし、それを踏まえ日本語教育を実施する企業の協力を得て講座をプログラム、実施した。製造業2社延べ44名（国籍ベトナム、モンゴル）の受講があった。同時に、日本人従業員にも外国人雇用への理解を持ってもらうことを目的に、「(取組 9-1) 企業向け異文化間理解講座」（やさしい日本語を含む）を実施した。従業員向け日本語教室協力企業と共にプログラムを企画し、13社計19名からの参加を得た。企画にあたり、留学生の雇用促進を目的に企業向け異文化間コミュニケーション講座を実施する大学へのヒアリング、主催事業への参加を行い、参考とした。

これらの取り組みについて、企業との取り組み事例のシンポジウム登壇依頼を神奈川県から受け、業界団体と共に登壇した。発表準備を通じて他地域の商工会議所や日本語学校、県国際交流協会、業界団体との関係ができ、さらに相互理解が深まった。

企業従業者向け日本語教室実施に当たり、企業のニーズ把握および広報に市内業界団体の協力を得た。令和3年度は当協会の紹介や講座周知等、2つの業界団体のメールマガジンも活用して行った。

情報冊子（2022年3月発行）では、ニーズ調査に始まる約3か年の取組を通してできた業界団体や企業、学習者との関係を踏まえ、「外国人とともに働くために、大切なこと」をテーマに特集を組んだ。従業員向け日本語教室参加の企業社長・社員、外国人従業員、日本語教育企業へのインタビューから構成し、市内企業等の参考となることを目指した。

(重点D) ICTの活用促進＋（重点E）教室等の活動継続のための連携・支援(取組 5-5, 6, 7, 6-4, 3-8)

〈連携機関〉オンラインでの日本語支援実績のある団体、地域日本語教室

〈連携内容〉

ICT活用講座「支援者向けオンライン日本語学習支援講座」（取組 5-5, 6, 7）、「ICT活用日本語教室日本語学習者向け『オンライン教材を活用した日本語教室』（取組 6-4）」として、支援者の活動継続支援および学習者の日本語学習機会の保持を目的に、令和2年度に引き続きICTを活用した各種講座を開催した。ICTを活用した講座では「ビデオ会議システムの参加・運営方法」「オンラインでの日本語学習支援」「インターネット教材活用による日本語学習支援」等をテーマに、延べ290人（概数）の参加を得ることができた。こうした機会提供も一助となり、地域日本語教室においては、オンラインによる打合せや日本語学習支援活動が行われるようになっている。横浜市国際交流協会が企画し、講師を一部担うことにより、協会の取組や地域日本語教育コーディネーターの存在が認識され、同時に学習者のニーズ把握にもつながった。

文化庁のオンライン日本語学習教材「つながるひろがるにほんごでの暮らし」を活用した。各回1トピック完結型の「オンライン教材を活用した日本語教室」では、サポーター役の日本語ボランティアと学習者として延べ140人（概数）の参加を得た。既存の関係者・機関とはより一層の協力関係を、また初めての参加者・新規団体とは新たな関係を作ることができ、継続的な教室参加や参加者からの口コミによる新規参加も見られた。

本取組については文化庁主催「つながるひろがるにほんごでのくらし」活用オンラインセミナーに登壇、報告を行い一定の評価を得た。

また、昨年度3回実施した「地域日本語教室・学習支援教室へのアンケート実施」(取組3-8)を情報冊子6月号で報告、「活動継続を支える5つの行動」としてまとめた。今年度も引き続き2回実施し、そのまとめをウェブサイトで紹介している。

＜委員からの声（一部抜粋、改変。以下、同）＞

・連携機関との情報共有や企画立案が丁寧に進められており、地域日本語教育を推進する上での基盤づくりにつながっていると思う。

・重点B（モデル地域）での展開を通して、少しずつ横浜市内の各区やその地域の支援者・学習者とのつながりが広がり深まっている様子がみられ非常に心強い。

・重点C（産業界等との連携）は、企業内に外国籍市民と一緒に働くことが当たり前の社会が来ていることを認識できる内容。参加した業界団体・日本語学校などの橋渡しができており、お互いが関係性を深める一つのきっかけ作りとなっている。

・重点D+E（ICT+活動継続）では、運営を共にした講師や団体との新たなつながりも見られ、徐々に連携が広がっている様子をを感じる。本事業の目玉となる取組が多く、継続、発展していただきたい。

（iii）どのような体制を構築できたか

（重点A）よこはま日本語学習支援センターの充実

＜取組の背景＞

令和元年度に作成したアクションプランに基づき、令和2年度より体制を作り、市域での地域日本語教育の総合的な体制づくりの一環として事業を展開した。

＜達成したこと＞

【基盤づくり】

よこはま日本語学習支援センターを令和2年8月に設置以来、地域日本語教育事業の包括的な取り組み拠点として各取組を実施、周知を行ってきた。令和3年度は総括コーディネーター1名と地域日本語教育コーディネーター3名を配置、外部委員（うち1名はプログラムアドバイザーとして委嘱）を含む総合調整会議やワーキンググループの設置・実施により、事業企画改善の提案・検証を受ける体制で進めた。また対外的窓口として、全ての市民を対象とした日本語相談室の運営と、団体（地域日本語教室、国際交流ラウンジ、区役所等）を対象とした、まちの日本語伴走隊事業を実施した。取り組み周知や時宜を得たテーマ、日本語学習情報等の情報提供手段として、ウェブサイト構築運営および季刊情報冊子企画編集執筆発行を行った。

【具体的取り組み】

地域日本語教室を対象とした活動状況アンケート等から見えた教室の課題を反映させた講座の実施（「オンライン教材を活用した日本語教室」（取組6-4））、地域日本語教育に関わる組織・機関と連携しての事業企画・実施を通し、地域日本語教室、国際交流ラウンジ、各区担当課との顔の見える関係づくりと関係の強化、関係機関数の拡大を図った（上述(i)連携機関の広がりについて、(ii)新たな連携機関と連携した内容参照）。講座等の受講者が自身の教室活動にその学びを反映させるなど、外国人への支援充実への寄与についてアンケート結果から分析、基盤づくりの方向性に反映させた。地域日本語教育のすそ野を広げる取組を、日本語教育企業等の協力を得て実施（「企業従業員向け日本語教室『よこはまで楽しくはたらくための日本語教室』」（取組6-1））する等、外国人住民が必要な時に必要な日本語学習機会にアクセスできるよう

な基盤を、多様な社会資源を活用して作ってきた。

以上、横浜市域における地域日本語教育の中核的な拠点としてよこはま日本語学習支援の機能強化と推進体制構築を一步進め、事業の企画実施力のアップとそれを通じた横浜市域における関係機関・団体とのネットワーク化推進、取組成果をまとめて発信することを通じた還元を進めた。

<委員からの声>

- ・地域日本語教室へのアンケートは、非常に示唆に富み、他地域にも参考になる。また同じ地域内の他の日本語教室の動向を知り、自分たちもチャレンジしてみようと思う支援者も少なくないと思う。こうした細やかな情報収集と情報発信を充実させていくことで、「よこはま日本語学習支援センター」の認知度や信頼度が上がっていくことを期待したい。
- ・ラウンジとの連携は必須。お互いの個別の事業への参加を通して意見やアイデアの交換をするなど、コーディネーターが同じ目線に立った連携作りをしていることと期待する。
- ・そもそも基盤づくりには、大きなエネルギーを使って粘り強く進めることが必要で、次なる目標を見定めながら、常に先の絵を描く必要がある。現状は助走が終わったところであり、いよいよ確固たる基盤の設置とともに、今後の青写真を検討していかなければならないと思う。
- ・多様な講座はもちろん、本質的な課題について開催できていると感じる。
- ・公的な運営による日本語教室をすでに開始している点が素晴らしい。専門性の高い教員が計画的に授業を行うことで、学習者の定着率も確保しており、他の自治体もモデルになるのではないかな。
- ・期間が終わったあとも継続できる体制を整えるとともに、大きなゴールに向けた具体的な法やシステムの整備はトップダウン的に行政にがんばってほしい。横浜市は常に、日本の外国人対象の行政の指針になってほしい。神奈川県との連携や他の市町村の取り組みとの連携も必要。

(iv) 事業実施に当たっての周辺自治体や域内の関係者等へ周知・広報及び事業成果の地域への発信について

これまで横浜市国際交流協会として関係を作ってきた組織・団体及び総合調整会議委員の協力により、企業との関わりや、新たに講師として協力を得られた相手との関係性を大事にし、令和3年度も引き続き、新たな関係者・団体との協働により取り組みを進めた。さらに、業界団体のメールマガジンでの記事掲載や、近隣市国際交流協会、市内大学留学生センター等の協力を得るなど、広報範囲を広げることを通して着実に日本語教室等への参加は増えてきた。また、季刊情報冊子の特集に関連する当事業初め当協会が企画実施に関わる支援者向け講座や学習者向け日本語教室等で、情報冊子を活用するなど、広報媒体の有効活用にも努めた(Ex. 国際交流ラウンジ主催日本語ボランティア入門講座での、情報冊子掲載新規支援活動者の紹介により、具体的な活動参加イメージを持ていただく等)。

事業成果の発信は、FACEBOOKでの各事業担当者による報告掲載、ウェブサイトへの年度・学習者向け／支援者向けでフォーマットを変え視認性を向上させた各事業報告書のアップ、日本語教室等で活用できるように季刊情報冊子特集での紹介、事業報告会の実施(Ex. 2020年度モデル地域活動報告会)、文化庁や他県・市区町村からの報告依頼等の引き受け(文化庁、神奈川県)、調査協力対応(他自治体による地域日本語教育実態調査への取組事例提供)等、内容に応じて様々に工夫した。

今後の課題は、よこはま日本語学習支援センターとして、学習者や支援者、関連機関・団体が、必要とする情報やノウハウ等にアクセスしやすくなることである。さらには、地域日本語教室をはじめ地域日本語教育の支援体制強化や取組内容充実へとつながり、外国人のニーズに合わせた日本語学習機会の創出やアクセ

ス性の向上実現を目指す。より包括的な支援体制の構築、情報相談対応を目指し、当協会受託運営する市の一元窓口、多文化共生総合相談センターとも協力し、2020 年度に委員より提案された「横浜モデル」としての基盤づくりを引き続き行う。

＜委員からの声＞

- ・ SNS などを使っての情報発信も行い、地域に情報提供を行っている点は評価できる。日本語教室の参加は口コミによるものも多いと思われるのでラウンジ等を通じて発信し続けることに期待する。
- ・ 昨年と比較し、SNS でセンターの活動を目にする機会は格段に増えた。個人としては企業として外国籍市民を雇用しているが、雇用している従業員にとっても実りのある内容の講座やボランティア活動等、広報を知ることによって個別に案内をし、参加を促すなどの啓発も行えている。
- ・ 本当に情報を必要としている人、または場所に届けるためには、地域で活躍する「コーディネーター」を活用することも不可欠と考える。

4. 課題と今後の展望

（１）課題と困難な状況への対応方法

2 年目の今年度は、昨年度同様に「種まき」をしつつ、出た芽を大切に育てた期間として位置付けたい。コロナ禍において、地域日本語教室の活動は模索を続けており、学習支援者の減少や会の運営方針の揺れなども散見される。地域日本語教室向けのアンケートや講座の実施等を通じて、情報のやりとりができる機会を意識的に作った。多様な活動・学習ニーズに応えるためにも、運営者やコーディネーションを行うスタッフの役割は大きいことから、安定した組織運営につながる講座も実施した（グループ運営や著作権、差別をテーマとした研修会）。日本語支援を目的としない研修会に多くの参加を得たことは、今後の市民活動の向上にもつながると考える。スキルという面では、オンライン開催だけでなく対面と併用したハイブリッド形式の講座も行った。区役所等との連携事業において、オンラインやハイブリッドを実施できたことで、市域全体としてのスキルの底上げにもつながった。

日本語教室開催にあたっては、初期日本語教室へのニーズに対し、市域対象の強みをいかしてオンラインの教室をたちあげることができた。今後定番のプログラムとなるよう、講師を含めた検討会を行ったので、今後につなげていきたい。

＜委員からの声＞

・外国につながりを持つ方々や、現場の最前線に身をおく方々の声を聞き、一緒に作るという姿勢が不可欠。そこに、さまざまな当事者の役割や活躍の場も生まれるのではないかな。

・本当に情報を必要としている人、または場所に届けるためには、地域で活躍する「コーディネーター」を活用することも不可欠と考える。「人を介す」ことを念頭に、活動分野を超えた地域コーディネーター会議はできないだろうか。

・モデル地域事業の目的は、その地域が主体的に、またその地域の個性を活かした活動や事業のサポートだと考える。横浜市・YOKE はあくまでも黒子として何ができるかを模索していく必要があると思う。

・モデル地域である 3 区や参加した業界団体が、それぞれに得た知識やノウハウを使って、実情に合わせた形でいかに自立していくのか、その道筋を描いていくことが必要。

・企業だけではなく従業員（日本語母語話者・非母語話者ともに）のニーズ分析とともに現在の路線から一歩視野を広げた展開を期待したい。

（２）今後の展望

今年度事業の見直しを踏まえ、より充実した内容の事業へとブラッシュアップしていく。そのためには、事業実施体制の、人材育成の観点からの当事業担当スタッフを含む、関係者、参加者の学びの機会の充実を通し、外国人住民がいつでもどこでも日本語を学べる、話せる、地域日本語教育の体制づくり、「横浜×日本語×多文化共生」の地域づくりをさらに進めていきたい。

その際、外国人当事者の声やニーズを取り入れること、「一緒につくる・一緒に汗をかく」機会をつくるなど、経験をともにできるような事業等を通じ、よりすそ野が広がるような取り組みを行うと同時に、その質を高めていく。市内地域日本語教室のハブであるという意識を持ち団体の情報集約・共有・提供、コーディネート等を通して風通しの良い関係を作り、外国人住民のニーズに対応できる機会の創出を行っていきたいと考える。なお、今年度計画していたものの、今後の検討課題とした、市域における地域日本語教育の担い手の広がりとしての地域日本語教育に係る人材の組織化（人材バンクの構築）については、新たな枠組みでとりくんでいきたい。

【参考写真一覧】

取組番号	写真名
3-5	情報冊子「にほんごコミュニケーション」の発行
	
3-9-5	2020 モデル地域活動報告会
	
5-5～5-7	ICT 活用講座「支援者向けオンライン日本語学習支援講座」

15	5-5・5-6	(5-5) (5-6) ICT 活用講座「支援者向けオンライン日本語学習支援講座」(参加編・開催編/5月・6月) チラシ	○
16	5-5・5-6	(5-5) (5-6) ICT 活用講座「支援者向けオンライン日本語学習支援講座」(参加編・開催編/5月・6月) 報告書	○
17	5-5・5-6	(5-5) (5-6) ICT 活用講座「支援者向けオンライン日本語学習支援講座」(参加編・開催編/12月コース・1月コース) チラシ	○
18	5-7	(5-7) ICT 活用講座「支援者向けオンライン日本語学習支援講座」(活用編/夏期) チラシ	○
19	5-7	(5-7) ICT 活用講座「支援者向けオンライン日本語学習支援講座」(活用編/夏期) 報告書	○
20	5-7	(5-7) ICT 活用講座「支援者向けオンライン日本語学習支援講座」(活用編/秋期) チラシ	○
21	6-1	(6-1) 企業従業者向け日本語教室チラシ	○
22	6-2	(6-2) 外国人親子教室 (オンライン) チラシ	○
23	6-2	(6-2) 外国人親子教室 (つるみ) チラシ	○
24	6-3	(6-3) 初期日本語教室チラシ	○
25	6-4	(6-4) ICT 活用日本語教室 (夏期) チラシ	○
26	6-4	(6-4) ICT 活用日本語教室 (夏期) 報告書	○
27	6-4	(6-4) ICT 活用日本語教室 (秋期) チラシ	○
28	9-1	(9-1) 企業向け異文化間理解講座チラシ	○
29	9-2	(9-2) 学習者向けにほんご交流会 (2021 年 4 月) チラシ	○
30	9-2	(9-2) 学習者向けにほんご交流会 (2022 年 3 月) チラシ	○
31	9-2	(9-2) 学習者向けにほんご交流会 (特別編) チラシ	○
32	9-2	(9-2) 学習者向けにほんご交流会 (特別編) 報告書	○